

消防署 だより

松前消防署 ☎ 984-3404
FAX 984-4011

火災の危険は炎以外にも

煙の特徴を知って命を守ろう

火災での死因として、やけどに次いで多いのが「煙死」です。煙死とは、煙に巻かれたり、有毒ガスを吸い込んだりして亡くなること。直接の死因となる以外にも、煙を吸い込んで気を失い、逃げ遅れるなど、煙が原因で命を落とした人が大勢います。煙の危険性を知り、火事が起こったときは早めの避難を心掛けましょう。

▶ 煙の特徴

● 広がるスピードが速い

横方向は秒速 0.5 ～ 1 m で、成人が歩く速さとほとんど変わりませんが、縦方向には秒速 3 ～ 5 m もの速さで広がります。このため、階段や 2 階にはあっという間に煙が充満してしまいます。

● 視界が狭くなる

煙は空気よりも軽いため、天井に達してからは徐々に下降してきます。

火災初期は白い煙ですが、徐々に黒煙に変わって、視界が狭くなり、避難する方向が見えなくなります。また、視界が狭くなることにより、パニックに陥る危険性もあります。

● 時間がたつと温度が上昇する

黒煙は低温でも約 250℃ 前後もあり、時間経過とともに 500 ～ 700℃ くらいまで上昇します。

● 一酸化炭素中毒になる危険性

煙と一緒に発生する一酸化炭素は無色無臭。吸い込むと一息で意識を失う場合もあり、非常に危険です。

▶ もしも火事になったら

住宅火災の場合、火災発生から 3 ～ 5 分ほどで、炎や煙が立ち上り避難ができなくなります。避難が可能な時間はほんのわずかです。まずは、早期の初期消火や避難を考えましょう。

【日頃からの対策】

- 1 高齢者などの避難困難者は、1 階など避難しやすい部屋を寝室にする。
- 2 廊下や階段に避難の妨げとなる物を置かないよう整理しておく。

【火災時の対応】

- 1 火災を発見したら、「火事だ!」と大声で叫んで家族や近所に知らせる。
- 2 天井まで火が達していたら、消火は諦めて避難を優先する。
- 3 貴重品の持ち出しよりも、避難を第一に考える。
- 4 煙を吸わないよう姿勢を低くし、ハンカチなどで鼻と口を覆い、床や壁に手を当てて壁伝いに避難する。



- 5 煙で避難ができない場合は、窓やベランダなど外気のある場所に避難し救助を求める。
- 6 避難後は決して家の中に戻らない。

News

3月1日～7日

春季全国火災予防運動

守りたい 未来があるから 火の用心

3月1日(土)から7日(金)までの7日間、全国一斉に春季火災予防運動が行われます。

皆さんも、この機会に火災の恐ろしさを再認識し、火災から「生命」「身体」「財産」を守るため、普段からできる対策を考えてみましょう。



【提供元】一般財団法人
日本防火・危機管理促進協会